



事 務 連 絡

令和2年6月10日

各都道府県教育委員会

教科用特定図書等御担当者 殿

文部科学省初等中等教育局教科書課

令和2年度音声教材普及推進会議の開催について

日頃より、教科用特定図書等の普及・促進に御協力いただき誠にありがとうございます。

文部科学省では、発達障害等により通常の検定教科書等において一般的に使用される文字や図形等を認識することが困難な児童生徒に向けた教科用特定図書等としての音声教材の普及促進を図るため、平成26年より音声教材普及推進会議を開催してきましたが、今年度は会議形式による開催ではなく、別添のとおり動画を配信することとしました。配信開始日は8月末から9月初旬を予定しております。

つきましては、域内の学校、機関等の関係者に会議の開催について御周知いただくとともに、質問事項等があれば所定の様式によりご提出いただきますようお願いいたします。

《本件問い合わせ先》

文部科学省初等中等教育局教科書課

教科用特定図書普及促進係 渡辺、中村

TEL 03-5253-4111 (内線4743)

FAX 03-6734-3735

E-mail : kyokasyo@mext.go.jp



令和2年度音声教材普及推進会議実施要項

文部科学省初等中等教育局教科書課

1. 趣旨

発達障害等により、通常の検定教科書等において一般的に使用される文字や図形等を認識することが困難な児童生徒に向けた教科用特定図書等としての音声教材について、各教育委員会等の教科用特定図書等の担当者等に対して周知を図り、もって音声教材の普及推進に資することを目的として本会議を開催する。

2. 対象者

- (1) 各都道府県教育委員会の教科用特定図書等担当者
- (2) 市町村教育委員会の教科用特定図書等担当者
- (3) 学校の教員、保護者等

3. 開催方法等

YouTube の録画動画配信（一般公開）とし、配布資料は文部科学省ホームページに掲載する。配信開始日等は後日連絡する。

4. 内容

本会議の内容は概ね以下のとおりとする。

- (1) 文部科学省行政説明
- (2) 令和2年度音声教材の効率的な製作方法に関する調査研究の受託団体による説明（各団体の製作する音声教材の特徴・使用方法等）
 - ・公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会
 - ・東京大学先端科学技術研究センター
 - ・NPO法人エッジ
 - ・茨城大学
 - ・広島大学
 - ・愛媛大学
- (3) 学校現場におけるアセスメントとICT利用による読み書き支援
（東京大学先端科学技術研究センター 近藤武夫准教授）

5. 質問事項等記入用紙の提出

- (1) 都道府県教育委員会の教科用特定図書等担当者は、域内の市町村教育委員会（政令市教育委員会も含む）の教科用特定図書等担当者に質問事項等について別紙1により照会し、その回答を1つのファイルに取りまとめの上、文部科学省に提出すること。その他、都道府県教育委員会か

らの質問事項等がさらにあれば、別紙 2 により提出すること（別紙 1、2 ともに質問事項等がない場合は提出不要）。

(2) 市町村教育委員会（政令市教育委員会も含む）の教科用特定図書等担当者は、質問事項等がある場合は別紙 1 にまとめ、都道府県教育委員会に提出すること。

(3) 提出方法等は以下のとおりとする。

【提出方法】

電子メールの添付ファイルにより提出

【提出期限】

7 月 2 1 日（火）

【提出先】

文部科学省初等中等教育局教科書課教科用特定図書普及促進係

E-mail : kyokasyo@mext.go.jp

音声教材について

音声教材とは、発達障害等により、通常の検定教科書では一般的に使用される文字や図形等を認識することが困難な児童生徒に向けた教材で、パソコンやタブレット等の端末を活用して学習する教材。「障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の普及の促進等に関する法律」（教科書バリアフリー法）に基づき、教科書発行者から提供を受けた教科書デジタルデータを活用し、ボランティア団体等が製作している。文部科学省は、以下の団体に調査研究を委託しており、その成果物である音声教材を読み書きが困難な児童生徒に無償提供している。

音声教材製作団体の概要

公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会

(<https://www.dinf.ne.jp/doc/daisy/book/daisytext.html>)

- 教材名：「マルチメディアデザイン教科書」
- 主な特徴：音声、本文等テキスト、挿絵等の図版を含む。ハイライト機能あり。
音声は肉声及び合成音声。視覚と聴覚から同時に情報が入り内容理解がしやすい。
小・中学校の教科書を中心に作成。
パソコンやタブレット端末にて利用可能。
- 利用者実績：11,677人（令和元年度）

東京大学先端科学技術研究センター

(<https://accessreading.org/about.html>)

- 教材名：「AccessReading」
- 主な特徴：音声、本文等テキスト、挿絵等の図版を含む。ハイライト機能あり。
音声は合成音声。視覚と聴覚から同時に情報が入り内容理解がしやすい。
小・中・高校の教科書を対象。Word版のものとEPUB版の2種類を作成。
パソコンやタブレット端末にて利用可能。
- 利用者実績：450人（令和元年度）

NPO法人エッジ

(<https://www.npo-edge.jp/>)

- 教材名：「音声教材BEAM」
- 主な特徴：音声のみの教材（テキストや挿絵等の図版はなし）。
音声は合成音声。小・中学校の国語・社会を中心に作成。
スマートフォン、ICレコーダー等、mp3ファイルが再生可能な機器で利用可能。
データ容量が軽く、操作が簡便。
- 利用者実績：265人（令和元年度）

茨城大学

(<http://apricot.cis.ibaraki.ac.jp/textbook/>)

- 教材名：「ペンでタッチすると読める音声付教科書」
- 主な特徴：音声、本文等テキスト、挿絵等の図版を含む。
通常の教科書と見た目はほぼ同じ。音声は肉声。
小・中学校の国語を中心に作成。音声ペンをタッチして読むことで意識が紙面に向き、能動的な読書になる。鉛筆やペンでの書き込みが可能。
- 利用者実績：964人（令和元年度）

広島大学

(<https://home.hiroshima-u.ac.jp/ujima/>)

- 教材名：「e-Pat（文字・画像付き音声教材）」
- 主な特徴：サイズ等の変更が可能なテキストを合成音声で読み上げる。
読み方を指定しているため正確に読み上げる。単語の辞書検索も可能。
音声読み上げ中、同じページ番号の原本教科書画像データに表示切り替え可能なため、授業中、授業者の指示に対応しやすい。小中学校を中心に製作。
iPad、iPhoneなどのiOS機器にて利用可能
- 利用者実績：14人（令和元年度）

愛媛大学教育学部

(<http://www.karilab.jp/unlock/index.html>)

- 教材名：「UNLOCK」
- 主な特徴：音声、本文等テキストを含む（挿絵等の図版はなし）。音声は合成音声（一部肉声）。
小・中・高の教科書を対象。電子辞書等を用いて、テキスト形式（.txt）ファイルを表示、文字を読みやすい大きさに変更可能。あわせて音声を再生可能。電子辞書で調べ学習にも対応。
- 利用者実績：18人（令和元年度）